

第75号

オリガミアンだより

2022年8月25日発行

交流プラザ 夏休みの 子ども折り紙教室開く

ひよどり台交流プラザ主催の「夏休み子ども折り紙教室」が8月23日（火）、同プラザ1階「たんぽぽ」で開かれ、夏休みの一日、子どもたちの歓声が響きわたった。

子どもたちの笑顔広がる



コロナ禍で家に籠りがちの子どもたちを元気づけよう、との同プラザの呼びかけで開かれた。同プラザで練習を続けるマイルストーン・イングリッシュ・クラブ（指導：西澤久美子先生）とオリガミアンが賛同、パンフを貼り出し、一般にも参加を呼びかけた。

当クラブからは吉都紀、榎本、岩永、熊谷（敬称略）が参加。折り紙教室を体験したのは近くの小学生9人（男3人、女6人）と親2人の計11人。9日に開いた特別体験教室の参加者も数人顔を出した。最初はメインテーマである「フェアリーペンギン」づくりに取り組んだが、工程の最後に目玉を貼りつけると一人ひとりの個性が出てさまざまな表情になり、笑顔が広がった。

2時間半の長丁場になったので2回の休憩を取ったが、この時は会員が作ってきた人の指大のミニ・ペンギン折り紙を活用してちょっとしたテーブルマジックも披露。完成したペンギンを高く積み上げる遊びも紹介「折り紙を通じて深く掘り下げる」姿勢をさりげなく訴えかけた。

折り紙教室の後半は、子どもたちの希望に応じて「一つ目小僧」「ちょうちんおばけ」「ワンピース」「ハート」「サンタ」などにも挑戦した。参加者の中には配布された折り図をきちんと読み取り、的確に折り上げて行く子どももあり、私たちオリガミアンのメンバーがびっくりするケースもあった。会員が丹精込めて作り上げた折り紙満載の記念品にも歓声が上がった。心地良い疲れが残った一日だった。世界が認める日本の伝統文化「オリガミ」。折り紙教室がこの奥深さに気づいてくれるきっかけになればうれしい。

汝の立つ处を深く掘れ、そこに必ず泉あり（フリードリヒ・ニーチェ）。折り紙も同じですね。



休憩時間、折り紙作品を使ったテーブルマジックにも人気が集まる



どちらもマイルストーン・イングリッシュ・クラブ 西澤久美子先生提供

「切手の中の切手」という 収集ジャンルはあるけど…

北須磨文化センターが粋なパンフ製作

右の写真を見てください。北須磨文化センター図書室が製作・掲示したパンフです。ここの活動を当クラブの会誌「オリガミアンだより」第73号で紹介したところ、それを上手にあしらったパンフを作ってくれました。言わば「パンフの中のパンフ」。あまり見かけることはなく、結構、おもしろいものです。切手収集では下の写真のように「切手の中の切手」という立派な収集ジャンルが確立され、その専門収集家がおられるのは事実ですが…。



次回練習日は9月6日、「秋を感じる」折り紙を取り上げます

教室の前半はみんなで「ペガサス」の練習。休憩を挟んで後半は体験教室の方や初心者向けには「うさぎ」「きつね」「たぬき」にチャレンジするコーナーをつくります。「ペガサス」折り図は『オリガミアンだより』第58号～第61号に登載。「うさぎ」は同・第25号、「きつね」と「たぬき」は同・第34号で紹介しています。ネットで「オリガミアン」と検索すれば出てきます。興味のある方は覗いてみてください。満月をあしらった色紙に貼りつけるとなかなかオツです。